京都大学における地域連携の取組について



京都大学　吉田キャンパス

京都大学の地域連携方針

京都大学は、「研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う」とともに、「世界に開かれた大学として、地域との連携・国際交流を深め、自由と調和に基づく知を社会に伝え、地球社会の調和ある共存に貢献する」ことを基本理念として掲げ、知の創出と知的資産の社会還元を大学の大きな役割と位置づけています。

京都大学は、こうした基本理念を継承・発展させるとともに、大学の社会貢献の一環として産官学連携活動を推進し、大学で創出された研究成果を知的財産としても普及・活用を促進します。この産官学連携活動を通じて、我が国及び地球社会に貢献するとともに、本学における教育・研究活動の一層の発展と国際的な人材育成に資することをミッションとしています。

PICK UP

大学の研究者



情報学研究科
原田　博司　教授

■　主な研究内容

第5世代/第6世代移動通信システム
スマートM2M (Machine-to-machine)通信システム

※研究者の経歴等は
（URL：http://www.dco.cce.i.kyoto-u.ac.jp/ja/）
をご参照下さい。

デジタル技術の活用
（ネットワーク）

地域課題解決に向けた活用例

■　活用分野

防災・防犯、健康・医療

■　活用例

広域Wi-Fiシステムを用いた無線通信により、山間地域等に発生した天然ダムの水位をリアルタイムに把握し、地域の減災・防災に活用

京都大学における地域連携の取組について

PICK UP

大学の研究者



学術情報メディアセンター
緒方　広明　教授

■　主な研究内容

モバイル・ユビキタスラーニング、
教育ビッグデータ、
教育データサイエンス、
教育情報学、教育工学等

※研究者の経歴等は
（URL：https://www.let.media.kyoto-u.ac.jp/）
をご参照下さい。

デジタル技術の活用
（AI・データ利活用）

地域連携事例集にも掲載されています。

地域課題解決に向けた活用例

■　活用分野

教育

■　活用例

教育用説明生成AIエンジンの教育現場での活用

- AIが児童生徒の学習プロセスを理解して説明を生成し、学ぶべき事項を推薦

地域との連携形態について

地域との連携形態

研究から生まれた卓越した「知」を社会に伝え、自らも社会の一員として、社会が抱える多元的かつ複雑な諸問題の解決に取り組むため、京都大学では様々な産官学連携メニューを用意しております。

Menu .1
共同研究
企業等と大学が共同して研究を行います。

Menu .2
産学共同講座・産学共同研究部門
大学内に産学連携による組織を設置します。

Menu .3
包括的（組織対応型）共同研究
「組織」対「組織」の連携により課題探索から研究を行います。

Menu .4
受託研究
企業等からの委託により大学が研究を行い、
その成果を企業等に報告します。

Menu .5
受託研究員
企業等から現職の技術者等を受け入れます。

Menu .6
寄附金
寄附者の意向に沿って教育研究活動に活用します。

Menu .7
寄附講座・寄附研究部門
寄附者の意向に沿って大学内に組織を設置します。

Menu .8
学術指導
本学教員が企業等に対して技術指導・コンサルティングを行います。

Menu .9
技術移転
本学の知的財産を活用していただけます。

参考URL：https://iac.kyoto-u.ac.jp/

連絡先
京都大学　成長戦略本部
Mail：co-creation@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp